

戦争への道はイヤです!

秘密保護法の廃止を求める

知多半島 市民のつどい

長野県・阿智村には満蒙開拓団の悲劇の歴史が刻み込まれています

かつてこの国には、「軍機保護法」という「秘密保護法」と同じような法律があった。その中で、何も知らされずに満州に出かけていった人たちがいた。

国策の名の下に教師が教え子たちを青少年義勇軍として、村の職員は老人や婦人子供たちまでも開拓団として「すばらしい新天地がそこにある」といって送り出した。昭和20年8月9日ソ連軍侵攻が始まると守ってくれるはずの関東軍は、この人たちを置き去りにした。ひどいところでは盾にして軍だけが撤退していった。多くの人たちが帰らぬ人となった。

阿智村と村民に起きたこうした歴史の真実を岡庭前村長に語ってもらい、いかに秘密保護法が危険な法律が学習しましょう。

日時

7月6日(日)

(午後1時半開場) **2時~4時**

会場

**アイプラザ半田
小ホール**

長野県下伊那郡阿智村前村長

お話しする人

岡庭一雄氏



岡庭さんは四期16年「阿智村」村長を務め、今年2月退任されたところです。

「満蒙開拓団の悲劇の歴史から考える

秘密保護法」



今、輝いている「阿智村」って!

長野県の南端、下伊那地方の岐阜県境にある人口約6,700人ほどの小さな静かな村。昨年「満蒙開拓平和記念館」が建てられ、全国から沢山の人が訪れています。安倍政権の戦争する国づくりに若者たちが「黙ってはいられない」と声をあげ、前村長、元村議などが呼びかけ人になり秘密保護法の廃止を求める運動が広がっています。

京都から就農を求め1ターンした事務局長は29歳、事務局次長は31歳の女性で、1ターンの村職員です。パイタリティーな若者が廃止の運動の先頭に立ち、頑張っています。

主催:「秘密保護法の廃止を求める知多の会」

事務局:半田市職員組合

連絡先:近藤(090-5868-3673)